資産見返寄附金戻入	△ 27,657,445		
特許権仮勘定見返運営費交付金等（授業料）戻入	△ 2,710,052		
その他の収益	△ 116,382,876		
財務収益	△ 579,051		
臨時利益	△ 20,438,929	△1,585,517,182	
業務費用合計			2,414,906,005
Ⅱ損益外減価償却相当額			378,963,522
Ⅲ損益外減損損失相当額			—
Ⅳ損益外利息費用相当額			—
Ⅴ損益外除売却差額相当額			54,137
Ⅵ引当外賞与増加見積額			1,359,231
Ⅶ引当外退職給付増加見積額			△ 213,734,390
Ⅷ機会費用			
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	2,935		
政府出資の機会費用	25,430,202		25,433,137
Ⅸ（控除）国庫納付額			—
Ⅹ国立大学法人等業務実施コスト			2,606,981,642

国立大学法人会計基準

「「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」（国立大学法人会計基準等検討会議平成27年３月10日改訂）」及び「「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針」（文部科学省　日本公認会計士協会　平成27年３月30日最終改訂）を適用している。

Ⅰ　重要な会計方針

1　運営費交付金収益及び授業料収益の計上基準

原則として、期間進行基準を採用している。なお、「特別経費」、「特殊要因経費」に充当される運営費交付金の一部については、文部科学省の指定に従い、業務達成基準あるいは費用進行基準を採用している。

2　減価償却の会計処理方法

①　有形固定資産

定額法を採用している。耐用年数については法人税法上の耐用年数を基準としているが、主な資産の耐用年数は以下のとおりである。

建物：２～49年　　構築物：２～60年　　機械装置：４～17年

工具器具備品：２～15年　　船舶：２～５年　　車両運搬具：４～８年

なお、受託研究及び受託事業収入により取得したものについては当該研究期間を耐用年数としている。また、特定の償却資産（国立大学法人会計基準第84）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示している。

②　無形固定資産

定額法を採用している。法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（５年）に基づいている。

3　徴収不能引当金及び貸倒引当金の計上基準

将来の徴収不能及び貸倒による損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については、個別に債権の回収可能性を検討して回収不能見込額を計上している。

4　賞与引当金及び見積額の計上基準

賞与については、翌期以降の運営費交付金による財源措置がなされるため、賞与引当金は計上していない。なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外賞与増加見積額は、当事業年度末の引当外賞与見積額から前事業年度末の引当外賞与見積額を控除した額を計上している。ただし、賞与引当金は、翌期以降の運営費交付金により財源措置がなされない教職員への賞与の支払いに備えるため、当該教職員に対する賞与支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上している。

5　退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準並びに退職給付費用の処理方法

運営費交付金を財源とする教職員等に係る退職一時金については、運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上していない。なお、一部運営費交付金により財源措置がなされていない分については、教職員の退職給付に備えるため、期末自己都合要支給額にて引当金を計上している。また、損益計算書における退職給付引当金に係る人件費及び国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、基準第87第４項に基づき計算された自己都合退職による退職一時金及び年金給付に係る退職給付引当金の当期増加額を計上している。

6　国立大学法人等業務実施コスト計算書における機会費用の計上方法

国等の財産の無償使用による賃借取引の機会費用の計算方法

近隣の地代や賃借料を参考に計算している。

政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

10年利付政府保証債の平成27年３月末利回りを参考に0.395％で計算している。

7　リース取引の会計処理

リース料総額が3,000千円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。また、リース料総額が3,000千円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。なお、リース期間の中途において契約を解除することができないオペレーティング・リース取引の未経過リース料は以下のとおり。

①　貸借対照表日後１年以内のリース期間に係る未経過リース料：556,832円

②　貸借対照表日後１年を超えるリース期間に係る未経過リース料：812,700円

8　消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式による。

Ⅱ　貸借対照表

1　運営費交付金から充当されるべき賞与の見積額は142,442,489円である。

2　運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は2,216,566,897円である。

Ⅲ　キャッシュ・フロー計算書

1　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	807,058,820円
定期預金	0円
資金期末残高	807,058,820円

2　重要な非資金取引

ファイナンス・リースによる資産の取得：69,008,112円

寄附受けによる資産の取得：42,773,884円

3　科学研究費補助金等の記載方法

科学研究費補助金等支出、科学研究費補助金等収入については、純額表示している。